

2023年度第2回須坂市部活動地域移行検討協議会議事録

○日時 2023年7月3日(月) 16:00～17:40

○場所 須坂市役所3階305会議室

○出席者

【協議会委員】

傳田明康委員、田中賢一委員、花房多都蔵委員、鈴木はるな委員、高橋廣貴委員、塩野太蔵委員、島田 祐次委員、岡木久美子委員、土井恵生委員、富澤由香委員、中澤深雪委員、新井孝之委員、前川 和夫委員、北村知栄委員、坂田早苗委員

【オブザーバー】

北信教育事務所土橋裕樹指導主事

【事務局】

小林教育長、山岸教育次長、中村学校教育課長、峯村文化スポーツ課長、寺澤生涯学習推進課長、安川学校教育課教育政策係長、清水部活地域移行コーディネーター

○欠席者 佐藤宗男委員、小林晃委員、吉江志濃委員、斎藤澄人委員

全体進行 山岸教育次長

1 開 会

2 あいさつ

教育長：

皆さんこんにちは。ご多用の中、集まっていただき感謝を申し上げます。ありがとうございます。

第1回の検討会議が5月29日にありまして、本日が第2回目になります。前回は様々なご意見を出していただき、今日はそれらを更に深めていこうということであります。お手元に資料を用意しました。「思い出の郡球風景」というものです。

平成5年6月10日の、私が相森中学校の担任のときの学級通信です。30年も前のものです。恥ずかしいのですが、例えば一番下を見てください。

3と書いてあるところに、「暑さを忘れる応援をしてきなさい、一生懸命さのみが暑さを忘れさせてくれます」って、今こんなことを書けば笑われてしまうような昔の学級通信であります。

でも一番言いたいことは何かというと、最初の時にも私は、部活動の教育的意義というものを大事にして、地域に移行していくことがいいのではないかという話をしたのですが、いいか悪いかは別として、ここに私が書いた文章は、この頃の部活動の雰囲気のある意味象徴するようなことかなと思っていました。

これは、中学2年生の中体連の大会の地区大会が始まる2日前の学級通信です。

ほとんどの子どもたち、当時の相森中学校は、人数がいかったので、選手になれるかなれないか。なれない子が多かったと思いますが、その子たちに向けてのものです。文章をお読みいただければわかるのですが、部活で非常に優秀な成績を収めている学校だったらしいのですが、選手が絶対に勝つと自信持って参加した大会で負けたときに、「先輩が作ってくれた伝統を守れなくて申し訳ない」、「いつも優勝したり準優勝したのに、3位にも4位にも入れないで申し訳ない」と子どもたちが反省で言っているときに、この先生が言った言葉です。読んでみます。

「負けたことは誰だって悔しいに決まっているけど、いつまでもこうやって元気が出ないでいるのはかえって伝統を傷つける」、「明日のことをどうして考えないんだ」ってこの先生は言うのです。「俺たちは名誉も勝つことも二の次で、ひたすら毎日努力を重ね、良い技術を、また強い心や体を、何よりもチームワークをどう試合に活かしたら良いか、ただそればかり考えて励んできたはずだ」と。「そうやっているうちにいつも勝っていたんだ」と。「先輩の一人一人はみんなそうやって勝っていた。3度の飯よりも精いっぱいプレーすることが好きだった俺たちには勝つなんてことはおまけだし、付録みたいなものと思っていたんだぞ。」って言いながら、その子たちを励ましているわけです。

私はなるほどそうだなってそのとき思ったのです。

実は私は合唱部の顧問だったので同じような経験をして、その下に書いてある例は実は私がある大会で勝ったときでした。

その時、2位になった学校の子どもたちがトレタイツに着替えて会場を黙々と掃除するのです。そして一生懸命掃除した後、一列に並んでステージに向かって「ありがとうございました。」と言って帰ってきました。

私の学校の生徒は1位になったと外で大声で喜んでいました。喜ぶこともいいと思います。この学校のように、悔しさがあるのをじっとこらえながら、会場にお礼を言う仕草をみんなでやっていく。そこで自分に何とか折り合いをつけて次に向かっていく。この場合は勝負がある大会のことですが、きちんと自分の心を整理して次に向か

うという姿は、部活動がこれからどういう形になるにしても大事にしていかなければならない形だと思います。ぜひ、このところを繋げていくにはどうしたらいいかってことを皆さんにお知恵をお借りしたいと思います。

今日は、ここにスポーツ協会の傳田会長さんが来られていますけど、須坂市のスポーツ協会のスローガンは、「フェアプレーで須坂を元気に」です。

サッカーの修了式に伝田会長さんが一人一人の子どもたちに修了書を渡すときに言葉が詰まって絶句する場面が毎年ありました。

その姿を見ていますと、前回、「負けた日に心に一つ駅を持ち」という句を紹介しましたが、その駅を作ることに一生懸命になってくれている。その駅ができた子どもは、どんなスポーツや文化芸術と出会うにしても、その駅をきちんと通って、しっかりとした人生を歩んでいくことができるのではないかと思うわけです。

勝つことはとても大事なことです、そこを乗り越える何かもっとすごいことがこの教育的意義の中にはあるのではないかと思います。

また、勝ち負けとは関係ない文化系のものや、あるいはスポーツ系のクラブもあるわけで、そういう子どもたちにとってもやはりしっかりとした駅があり、そして自分の進むべき道がしっかりと見えていくような部活動にしてあげたい、地域移行にしてあげたいと思っています。

今日から少し具体的な話になっていくと思いますが、子どもたちにとってはどうなのかということを常に念頭に置きながら一緒に考えていただければありがたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

3 議事（新井座長進行）

(1)第1回協議会での意見等

（清水部活地域移行コーディネーター）

資料1でございます。第1回の協議会で皆様からいただいた主な意見等をまとめたものになります。

ここで振り返り今日の話し合いに繋げていただきたいと思います。

1点目ですが、部活動の地域移行についていろんな話を聞く。課題がある。自分もわからないことが多い。今、自分も試行錯誤しながら考えている。

2点目、地域移行したとしても、中学校の先生と情報を共有して、その子に寄り添うかが大事。寄り添っていくという指導者の考えがないと決して持続可能な組織にはならない。

3点目として、指導者は有償ボランティアでないといけないのではないかな。

4点目として、地域クラブができてくれば、施設の確保非常に大変になってくる。施設の使用については調整する機関を作ってほしいという意見。

5点目、指導者研修については、自分の所属する団体、サッカーになるが、もうもちろんやっており、審判講習もやっている。子どもたちに対する接し方も勉強しており、合格しないと指導者の資格がもらえないという状況がある。

6点目、合同チームについて、活動の調整に難しい面があったり、会場への移動とか保護者の方に負担をかけることがあった。

7点目、吹奏楽についてですが、一緒にやるのが非常に難しいのではないかな。楽器も違うしやっていることも違う中で、メンバーのスケジュール管理など、問題がたくさんあり難しいのではないかな。ただし千曲坂城クラブの先進事例を紹介していただいたが、これでいくと教育委員会が主導でやっていて、主導し運営しているところで、指導者とかアドバイザーという形でやるのであればできるのではないかな。

8点目、専門競技の顧問をする先生は少ない。地域クラブの指導者の確保については確実にやっていかなければならない。

9点目、部活動の良さは学校にいる仲間とその場所で活動ができること。だから地域クラブクラブになったときでも、できるだけその良さをなくしたくないという意見。

10点目、いろんな部活動ができたとき、いろんなことをやっていきたいと思えることはすごく素敵なことだと思う。いろんな子どもたちのニーズに応えたいが可能かどうかを考えて進めていくことが大事だと思う。

11点目として留学生が来て、美術部に入部した。自国にはクラブがないということで、日本に来て美術部に入って本当に良かったと感激していた。日本はそういう文化を持ち、培ってきたからスポーツや文化で成果を残していると思う。他の学校の人とコラボレーションして共同のことができると考えると、わくわくするという意見。

12点目、習い事について、子どもたちは小学校までは習い事をやるが忙しいなどで中学校へ行ってやめてしまう子が多い。日本の伝統文化を子どもたちにぜひ継承してもらいたいという気持ちが私自身は強い。日本舞踊、お茶、お花などの日本の伝統文化、またバレエダンスとかも含めて行政が中心になって文化関係ならば、メセナホ

ールや生涯学習センターなどを使って指導していくとか、行政が携わって最終的にはやらざるを得ないのではないかと考えている。

以上が前回出していただいた意見でございます。

指導者確保、指導者の生徒との向き合い方、指導は有償でとか、また、学校にいる仲間と活動することが大事だという話、また、円滑な施設の利用のことなど、様々な課題を出していただきました。また、地域クラブに対し、子どもたちは、どのようなニーズを持っているのか。これは把握する必要があるのかなと思いました。

また、習い事を途中でやめてしまう話や他校との共同活動に対する期待を話していただきました。

ガイドラインでは、スポーツや文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するため、今回の部活動改革に取り組むとしており、継続的に親しむ機会を確保していくことはしていくことは重要な視点となっています。また、部活動の教育的意義を継承・発展させ、新しい価値が創出されるようにすることが重要とされています。今後こういった視点をもって検討を進めていくことが大事と考えております。

次に前回の協議会終了後意見交換シートの提出がありましたので、ここで内容を報告させていただきます。

意見交換シートから 言えなかった意見として

一つとして、いわゆる貧困家庭の生徒が部活動に参加しない、できない事例もあると思います。ガイドラインにも書いてあるが、「困窮家庭への支援」についても考える必要があるのでは。という意見

二つ目として、部活動の地域移行については賛成という立場から

指導者への報酬は必要と思う。部活動の良さは学校単位で行うからこそそのメリットが多い。生徒や家族の目線で考えると活動場所への移動のハードルが高くなる。人件費等による生徒の参加費用等の負担増により参加したくてもできない生徒が出てくる可能性がある。市として部活動を応援したいという方針であれば何かしらの補助や助成が必要ではないか。日ごとに活動内容を変えろといった部活動があっても良いのではないか。という意見をいただいております。

本日、意見交換の場を設定しています。

前回の意見や意見交換シートから出されたことなども参考に思っていることを話し合っただけだと思います。

次に、協議会の内容についての質問です。

「県民新聞」の県教育長の言葉、「土日の部活動を地域にやってもらうのではなく、土日はもう部活動はやらない」との発言に違和感がある。「そもそも部活動とは学校教育現場においてどんな意味があるのか」を総括する必要があるのではないか。

という質問が出されましたが、オブザーバーの土橋先生にお話しをしていただければと思います。

(土橋オブザーバー説明)

改めまして、前回に引き続き本日も参加させていただいております北信教育事務所土橋と申します。よろしくお願いします。

今の2ページの一番下にあります内堀教育長、県民新聞に載せられていた記事のことでございますが、私も直接教育長にお話を聞くことがなかなか難しいということもございまして、スポーツ課の方にも確認をしたりもしておりますが、総括する必要があるというのはそのとおりと思っておりますが、県として改めてこの部活動の意義について総括するということは、行わないのではないかと考えております。

先ほどの資料にありました、国が出しているこのガイドラインですね。

これは概要で1ページにまとめられた内容ではありますが、本文は47ページにわたるものです。その前文の部分ですが、学校部活動というものは、体力や技能の向上を図る目的もあるけれども、それ以外にも異年齢との交流の中で、生徒同士や生徒と教師との好ましい人間関係の構築を図る、それから学習意欲の向上や自己肯定感、責任感、連帯感の涵養に資するなど、学校という環境における生徒の自主的で多様な学びの場として、教育的意義を有してきた。と総括されております。

県としてもこの国のガイドラインの前文に書かれているものを踏襲しながら、少子化の問題があり、学校でこれまでと同じ体制に行っていくのは非常に難しいという現状は変わりませんので、この教育的意義をいかにして地域のクラブ活動に継承していくのか、それを地域としてどう作り上げていくのか、ぜひそのあたりも先ほど教育長先生のお話もありましたが、ここにお集まりの皆さんに、ご意見をいただきながら、お知恵を絞っていただきながら、どのようにこの意義を継承し、新たな価値を創出していくのかというところも、視点としてお持ちいただければと思っております。以上になります。

(座長)

(2)先進事例の紹介等を事務局からお願いします。

(清水部活地域移行コーディネーター)

それでは私の方から説明を申し上げます。

先進事例の紹介ということで、資料2をご覧ください。

この資料2は、スポーツ庁の「運動部活動の地域移行等に関する実践研究事例集」令和4年11月のものと文化庁の同じく「文化部活動の地域移行に関する実践研究事例集」令和4年11月のものとスポーツ庁の「運動部活動の地域移行と地域スポーツ環境の整備について」令和4年9月資料から一部を抜粋したものです。

どのような運営団体がどのように地域部活動を行っているか皆様にイメージがつかうように、運営団体や活動内容について先進事例集等から紹介させていただきます。

最初に1ページになりますが、部活動の地域移行における地域クラブの運営形態のイメージです。

令和3年度に国が行った実践研究の結果を踏まえ、これは運動部の例ですが、文化部もほぼ同じではないかと思います。地域クラブの代表的な運営類型が示されております。

表のようにになっている部分を見ていただきますと区分として、左側になりますが、市区町村運営型、地域スポーツ団体等運営型、その他の3つの区分に分かれており、運営例としてその右隣に7種類あげられています。

市区町村運営型は、一番上に記載してある、地域団体・人材活用型、任意団体設立型、競技団体連携型の3種類があります。地域団体・人材活用型は、教育委員会が地域の団体や地域の指導者と連携し、運営する形で実施するものです。任意団体設立型は、市区町村が任意団体を創設し、任意団体が運営する形として実施するものです。競技団体連携型は、市区町村が競技団体と連携して運営する形として実施するものです。

真ん中の段の地域スポーツ団体等運営型は、総合型地域スポーツクラブ運営型と体育・スポーツ協会運営型と民間スポーツ事業者運営型があり、それぞれの団体や民間事業者が地域クラブを運営する形態です。

その他は、学校と関係する団体、例えば部活動の保護者会などや市内にはないが、地域学校協働本部、これは、幅広い地域住民等の参画を得て、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動を推進する本部のことをいいますが、これらが運営する形態があります。

このように地域クラブの運営類型は、種類分けをすると7種類の類型があることになります。

次のページになりますが、令和3年度のスポーツ庁の「休日の部活動の段階的な地域移行に関する実践研究」での地域部活動の受け皿の状況について示したものです。

令和3年度に102市区町村で実践研究が行われましたが、部活動の受け皿、地域クラブ活動の運営主体はどこが行ったかという表でございます。

結果はご覧のとおりですが、これはあくまでも実践研究の結果を示したものであり、数値が多いところが良いというわけではなく、地域の置かれた状況を踏まえ、最適な運営方法を検討し、柔軟に取り組んでいくことが大事だと考えています。

3ページから6ページまでは、運動部と文化部の各地の実践例の一部を示したものです。これについてはここでは特に説明はしませんが、地域によって様々な方法があります。

例えば、3ページは、①として総合型スポーツクラブが運営団体として、活動種目、指導者、活動概要を記載しています。教育委員会、体育協会が運営団体となっている場合も記されています。5ページ、6ページには、文化部の事例も資料としてつけさせていただきました。また、あとで見ていただければと思います。

これらはインターネットで見ることができますので、時間があるときに参考に見ただいただければと考えております。

経済産業省の未来のブカツにも特徴的な取り組みがありますのでそちらも参考になりますのでご覧いただければと思います。よろしくお願いします。

私からの説明は以上でございます。

(座長)

何か質問とかありますか。

では、(3)部活動の現状、地域移行への課題に入っていきます。

中学校では昨日、一昨日と陸上の県大会が行われました。土曜日は大雨の中、日曜日はすごく暑い日で、だいぶ日程を変えて運営をしてもらいました。

前の週が陸上以外の北信大会が全て行われて、多くの3年生がそこで引退し、勝ち残った子たちは、7月の3連休で県大会、その次の週が吹奏楽や合唱のコンクールでピークに来ています。

前回、合同チームの話をしてしましたが、夏の大会は前に話したとおり、3つの部活が合同チームで参加しました。

高山中のサッカーが飯綱中と信濃中と組んで、あと東中と高山中の女子バスケ、相森中と常盤中の男子バレー、この3つは合同チームを組んで出ましたが、ここで3年生が引退しまして、新人戦はもっと合同チームが増えてきます。

常盤中のサッカーはこれで5人、相森中のサッカーが10人で、サッカーで単独チームを組めるのは墨坂中だけという現状で、秋はまた合同チームが増えていくという形になっていきます。

まず中学校の先生方から、今の部活動の現状や大会も経験して感じることもありましたら、お話をいただきたいと思います。A委員お願いします。

(A委員)

本校は生徒数が多い学校ですので、それぞれの部活動は合同チームを組まずに出ていますが、実際は少子化で学校の生徒数は減ってきています。学校の部活数と生徒数がだんだん合わなくなっている。このままだと部活を減らさないと、教員数も減ってきていますし、生徒数も減ってきている。一つの部活の人数が非常に少なくなってしまう。そんな現状があります。

今、合同チームを組んでいないという話をしたのですが、実は人数が非常に少ない部活もありまして、例えば女子バレー部ですと、2年生は今、10人の部員がいますが、1年生がゼロという部活もありまして、数年後には合同チームを組まなければならなくなってくるのかという形も実際にあります。

まだ、これから先のことでわからない状態ではあるのですが、部活数は少し検討していくかなければならないかなというところが本校の課題であります。

(座長)

部活が減ると生徒の希望に応えられないという現状が出てきます。

B委員お願いします

(B委員)

東中学校では、男女のバスケットボール部、陸上部、卓球部、文化部として吹奏楽部と美術部の6つの部活動で今活動しています。

数年前までは女子バレー部があったのですが、所属する生徒がいなくなったということで廃部という形になってきております。

今後の東中学校の方も来年度以降入ってくる生徒の数も減って、ゆくゆくは、全学年単級になっていくということもありますので、部活動の数、A委員が言われていたが部活動の数も検討が必要なのかということを考えています。

ただ部活には所属せずに地域のいろんなスポーツとかに所属している生徒もたくさんいます。サッカー、野球、チア、それからバレーボールで今回の中体連の大会にもクラブチームで参加した生徒もおります。

私は今女子バスケットボール部の顧問をしているのですが、なかなか人数が少なくて、昨年度は5人で毎日練習をしていたのですが、新人戦から、高山中と合同チーム込ませていただいています。

人数が増えてできる練習もたくさんありまして、人数がいるからこそゲーム形式や対人の練習ができるようになってとてもありがたいなと思っています。やはりたくさん的人数でできるっていうことは、メリットがあるので、そういう機会が増えていくと良いと思っています。

(座長)

生徒数の減少がイコール教員数の減少になりまして、顧問の確保ということもこれからなかなか難しくなっていくと思います。C委員お願いします。

(C委員)

常盤中学校ですが、今、部活動は11部あります。そのうちの7つが運動系で、4つが文化系になっております。生徒の加入率は、運動部の方が3年生含めて全体で27%、文化部の方が36%、合わせると62%になっています。先ほどお話にあったように、部活動に入っておらず、地域の活動、サッカー、バドミントン、チアなどに入っている生徒もいます。昔から比べると、やっぱり部活に加入している人数は減ってきているというのが実際のところですよ。

ここで3年生が運動系はほぼ抜けてしまいました。サッカー部に関しましては、1年生が入らなかったんで、2年生5人となりました。この新人戦から、合同チームを組むのか、もしくは他の学校から生徒さんをお借りしてチームを作っていくのか、今、顧問の方でも今それが一番大きな悩み事があります。

外部指導者に関しましても運動部、7つの部活動で外部指導者、あるいは部活動指導員という形で地域の方にお世話になっております。

専門的な知識技能を持った教員が全ての部活に割り当てられるわけではないので、子どもたちの安全面とかあるいは技術の向上等を考えたときにそういう地域の方の力を借りることは大事なことだと思います。そこはよく助かっております。

(座長)

合同チームの話が出ましたが、文化系でも人数が減っている学校もあります。そんな現状を踏まえまして、地域の課題等について一人一人委員の皆さんからご意見をいただきたいと思います。

D委員お願いします。

(D委員)

卓球部の保護者会長をしているのですが、他の部活の方の意見っていうのはなかなか学校で聞く機会がないので、私の立場からの意見となってくるのですが、卓球部は、外部コーチが3名いてとても手厚くできています。先生は、卓球の経験がない先生がここ2年続いている中で、外部コーチに入っているということで、そのおかげで練習内容もそうですし、子どもたちの気持ちの安定感も外部コーチの方に大きく支えていただいている部分があります。

保護者からとしては、外部コーチへの謝礼が難しいところで、どの程度すればいいかっていうところもあります。もちろんお世話になっているので、謝礼を大きく出したところではあるのですが、やっぱり家庭の負担もありますし、その辺で悩んでいる部分はあります。

あとは保護者の当番なども、今、社会体育として動いている部分もあるので、その辺もあまり負担にならない程度に手探りでやっている状況です。できれば、市などが土台としてやっていただけると、保護者としてはやりやすいです。もちろん保護者も入って協力してやっていく部分ではあると思うのですが、やはり市など大きな団体の受け皿がしっかりできてくれると話が早くスムーズに進むのではないかと思います。

(E委員)

子どもが先日北信大会に行きまして、卓球をやっていて、みんなで団体戦の県大会を目標にやってきました。今年度からクラブチームが参加可能になり、今回このクラブは、小学校からの県の強化選手がたくさんいる長野県内でもとても強豪のクラブチームでして、そこが参加するってことなので、北信以外の他の地区と比べるともう最初から出場枠が一つない状態で、子どもたちは戦わなくてはいけないというとても厳しい状況でした。部活だと本当に限られた練習時間の中でみんな頑張っているの

ですが、同じ中体連の大会で競わなければならないので、例えばそういう強豪がいる地区は出場枠を一つ増やすとか、少し配慮をしていただくと他の地区とも公平になるのかと思います。子どもたちもなぜ今年度から急にクラブチームが出るようになったのか、今回、あと一つ勝てればちょうど県4枠で県大会に行けたのですが、このクラブチームが入ったために5位になってしまった。子供たちからしたら何で急に今年度からクラブチーム出るのかということで、かなり落ち込んでいた。練習の仕方也是如此ですけど、今後、いろんなクラブチームも出られるようになります。本当に人数が少なくて、大会に出られないので合同チームというのは良いと思うのですが、強豪のクラブチームと部活でやっているチームが中体連の大会で一緒に競うのであれば、何か今までにないルールなど配慮していただきたいという思いがあります。大会の方もこれから議論をしてほしい。

(座長)

大会運営の話ですが、他の競技でも同じような話があります。

(F委員)

この場で自分の自己紹介をします。自分は須坂市内で生まれ相森中学校です。入学したとき140cmちょっとしか身長がなくて、先輩たちを見上げて眺めたりしていた時期を思い出すのですが、1年生2年生と鳴かず飛ばずで、部活動をやっていました。自分は陸上競技なのですが、何をやっていいかわからなかったです。でも、先生たちの援助のおかげで中学3年生から豹変しまして、北信大会の幅跳びで一番になったのです。県大会でも1番。通信陸上で記録を集計したら全部で5番だった。中学校で人生変わったかというぐらい何か変わったのです。

もちろん体はそんな大きくなかったのですが、高校は地元の須坂高校に行かしてもらって、国体、インターハイと複数回入賞までさせていただけるようになり、教員時代もずっと競技を続けて今もマスターを続けているのですが、何を言いたいかというと、自分が駄目だな、運動苦手だな、足が遅いなっていう子どもが目の前に入ってきたときに、あなたでも何とかできるのではないかという気持ちがわかる。

自分もそうだったからってということと、競技志向の強い子どもたちが上を目指していくときには、どんなストレスやどんな課題が出るかということもある程度わかる。

この幅の広さが自分の子供たちと接しているときの一番の特徴じゃないかなと思って、今も現場で頑張っています。

今、自己紹介をさせていただいたのですが、部活動の指導員として今年で4年目に入りました。東中学校で陸上部の子どもたちを見始めたのが、教員だった時も含めて12年目に入っています。

今回、3つの面で皆様に課題を提案したいと思っています。

1つ目は、ハード面の課題だと思います。地域移行に関係してですが、まずは拠点校なり拠点の施設をどこに置くのか。これはすぐ出てくる課題と思っています。

特に、アウトドアのスポーツ、サッカーとかテニスとか陸上とか、活動場所をどこに設定するかは大きな課題になると思っています。もちろん活動場所が決まった時には、そこでどういう施設や器具などを揃えたらいいのかが次に出てくる課題と思っています。

2つ目は、ソフト面の課題。教育長さんや北信教育事務所が話したように部活動の意義を地域クラブがどうやって位置づけていくのか。私はこれが一番大事と思っています。須坂市として、これについては、子どもたちのニーズをしっかりと踏まえて、先進的な取り組みをしていくべきではないかと思っています。

なぜかという、運動スポーツを楽しみたいという子どもと競技志向が強い子どもたち、非常に幅が広いのです。常盤中学校のC委員も私陸上部で顧問をやっていたいて、よくわかると思うのですが、私がこのソフト面で考えていた指導は、どっちかに焦点を当てないと中途半端になってしまう。ずっと教員になってからも退職してからも同じですが、どこに焦点を当てるか保護者に説明するとき、僕は100mで一番足の遅い人。一番体力がなくて、足の遅い人がいたらその人、その人が部活動をやってすごく面白かったなって思えるようにそこに焦点を当てています。

結果的に競技志向の強い子供たちへの対応が不十分になると思います。それを承知でよろしく願いしますと説明します。そうでないと、どっちつかずになってしまうのです。今度は部活動がクラブ化になっていくときに、そこが難しいところになってくるかと思っています。

今後のことについては、十分楽しめたというニーズを持っている子どもと競技の技能を高めたい。もう少し競技を高校ぐらいまでやって、少し上に行きたいという子ども。その辺のところを一つ集団の中でやるのか、あるいは最初から2つぐらいに分けてやるのか、それなりに要求を満たすための組織を作っていくのか、ここら辺のところソフト面での大きな課題だと思います。

原則的には、先程、教育長さんが言われたように僕も大賛成です。

部活動の教育的意義はものすごく大きいです。得るものも大きいです。自分でもそうやって育ってきました。

最後に一番ホットな話題で陸上界の現況ですが、陸上界は日本陸上競技連盟で、2011年から課題が山積しているのです、全国の全中学校に冊子を配布しました。

その中身は、1つは幼少期ジュニアのときから、あまりにも専門家を育てすぎて困る。もうちょっと幅広くいろんな運動をさせてほしい。

2つ目は競技会に出すぎているということで、子どもたちがバーンアウトとしてしまうこと、そういうことを踏まえて、強い子どもたちの発達成長の段階に合わせて、長く運動やスポーツを楽しめるようにやってほしいという趣旨のことです。

でも現状を申しますと全く時代と逆行しております。今、陸上界は大変な競技志向、勝利至上主義とか記録至上主義とか言われてもおかしくないような状況の中で子どもたちは活動しています。

そういうことに何とか私達はもう須坂市としても自分としても一石を投じたいと思って中体連で定めている部活動のみの時間、特別なことを一切やらないで、結果的にちょっと競技成績が伴っていけばいいなっていうその間のところで苦労しながら毎日やっています。

あと最後に一つホットなエピソードを紹介します。一昨日、県大会やってきました。1・2年男子の低学年リレーですが、県ランキングトップで乗り込みました。

結果的には2番目と3番目のところでバトンを落としてしまい、それからこれを拾って一生懸命走ったが、最後になってしまいました。

最後になったことではなくて、3番目に走った男の子が陸上部で陸上をやりながらサッカーもやっている子なのですが、その日は、その子にメンバーチェンジをして、挑んだのです。その子は、その日大会1日目だったのですが最後まで残っているのです。2日目も1日競技場にいたのです。これを見て、なんて言葉をかけたらいいいのかなと思っていました。多分、彼の中に、今、最初に教育長さんがおっしゃったように、人間としての相当な成長をこの2日間でしたのかなと、また明日会うことを楽しみに話をしてみたいと思っています。ホットな話題で申し上げました。

(G委員)

私も大賛成です。F委員のおっしゃる通りだと思います。

私は、墨坂中学校合唱部の部活動指導員をやっております。

私の専門を活かせる場を提供していただいて、日々キラキラ輝く眼差しを持った中学生を前に、自分の専門を活かしたこと、それから技術とか知識も日々提供できることは、本当に幸せだなと思いながら過ごしております。その反面、私にいろんなことのお知らせが顧問の先生を通してしかお知らせが来ないのです。何か顧問の先生の負担を増やしているような気がいたしまして、働き方改革から逆行しているのではないかと日々とても心配しているところです。なので、そういう点から言うと、早く土日は学校と切り離していけたらいいかなとは思いますが、部活動の教育的意義は大きいのです。そこにどう価値を見出していかってということは大賛成ですので、中学生にはあらゆる体験を通して、入口になるところを大事に、いろんなことを経験させてあげたいなと日々思っているところです。

(H委員)

皆様と全然違う立場なので、どう関わっていけばいいのかというのが見えてこない状態です。これから皆様とお話していく中で、スポーツ推進という立場を活かせることを考えていきたいと思っております。

私は部活の方から遠ざかっており、昔のことを考えてみましたが、ほとんど部活の指導は学校の先生だったので、今ここで外部指導者の話が出ているのですが、私も勉強不足だったかと思っております。

ただ、いろんな大学の指導者、スポーツの方からしてみると、独裁的な指導とかが結構多くなっていて、そんなことにならないように、これからは専門的な心のケアとか精神の専門的な先生方をプラスアルファしてフォローしていただくような形も必要になってくるのではないかと感じております。

(I委員)

一般社団法人須崎市スポーツ協会の会長とJFCサッカースクールジュニアヴェンセール総監督を務めさせていただいております。

非常に自慢話みたいになって申し訳ございませんが、うちは練習を始める前に、まず子どもたちが集まりまして綱領っていうのを読み上げます。私達はサッカーを通して心身を鍛え、次代を担う少年としての人格を作りあげよう」その綱領をみんなで斉唱してから練習に入ります。

先々週、4年生が木曾へ練習試合に行きまして、帰り梓川で休みました。

梓川にテーブルが置いてあって、椅子が置いてあって外で休める場所があるので、おばあさんと子どもが休もうと思って来たら、子どもたちだけでいっぱいだった

た。どうしようかと思っておばあさんが別の場所を探していたら、うちの4年生が全員立ち上がって、どうぞと言った。それに非常に感動したと匿名で電話をいただきました。子どもたちは子どもたちなりに一生懸命スポーツを通していろんなことを学んでくれているんだなと大変嬉しい思いをしました。

私が一番気になるのは、クラブ活動が地域移行した場合、今学校の方でお使いになっているクラブ活動費というのはあると思いますが、そういうようなものの扱いはどのような形になるのか、わかる範囲で教えていただければ大変ありがたいと思います。

(J委員)

同じくスポーツ協会で事務局長をしています。

4月に着任したばかりで、その前は市の職員で、文化スポーツ課というスポーツの現場の方でやっておりました。

まだ着任して間もないのですが、スポーツ協会としての活動の中でいろいろ気がつくことがあります。いろんなスポーツ競技の団体の方が事務局の方に話に来るのですが、最近、陸上の大会で、県で入賞したという報告がありました。スポーツ協会で行っているアクティブキッズプログラムという、幼稚園から小学生がいろいろなスポーツを体験する事業がありますが、それによって陸上が好きになって、陸上にのめり込むようになって、記録を出したということです。

そういうことを聞くと地道な事業ですが、いろいろなスポーツ競技の団体の方を講師に招いて、本当に時には10人ぐらい集まったり、定員割れしたりとか、そんな事業ですが、こういった報告を受けるとすぐ事務局の職員も喜んでいまして、そういうのはやっぱりやっている価値があるのかなと思いました。

あと先ほどF委員からもありましたが、やっぱり競技志向でスポーツをやっている方と、いろいろちょっとやってみたいな、少しでも足速くなりたいなとか、楽しくやりたいな2つのタイプに分かれたときに、クラブ化になっていくときにどう対応していけばいいのかという中で、いろいろなスポーツを体験してみるっていいことだと思います。

自分も振り返ってみると、いろいろスポーツをやってきましたが、どれも中途半端な感じだったのですが、今、スポーツ協会の方に入ってみると、いろいろスポーツ競技の団体の方と昔から知り合いだったりするので、スポーツって本当に楽しくていいなという部分も非常に大事なのかなと思います。

文化部の面でも、須坂市にも、前回、K委員から話があったのですが、須坂市には本当に文化的な伝統がある。私も少し謡曲をやっていますが、北信流の盃事がコロナでほぼできなくなってしまいまして、今後もそういう風習も少なくなってしまうのではという心配もありまして。そういった中で、須坂の伝統的な昔ながらの文化というものをクラブの中で体験できるのもいいのかなと思っております。

(K委員)

須坂市文化芸術協会の会長をしています。

部活もたくさん問題があるとは思いますが、私が思うには、積極的にその部活に参加したいという人は、私立校とか地域のクラブに入るなどしていると思います。

そこまではというようなご家庭は、公立の中学で一生懸命部活をやるということですが、少子化っていうことを問題にしておりますけれども、今これ須坂市に限らず、全国的な問題になっておりますが、本当にこの少子化が原因でそれぞれの部活の人数が減ってきているのだろうかと思います。例えば、先日テレビで、今、割と人気があるっていうか、増えているのは帰宅部ですね。それとあとはフリースポーツ部という一つの部活に入るのではなくて、その時々によって、いろいろなスポーツをやるというそういう部活が、流行っているとテレビ放映されていました。

私の時代はもう部活に入るのは当たり前で、私もスポーツ大好きでしたから中学高校とバスケット部に入っていました。もう今はもうそういう時代ではないと思うわけです。受験もありますし、お金の問題もありますし、いろんな問題があるわけです。今ここの話し合いでは、公立中学の部活をこれからどうしていったらいいかと部員が少なくて合同でやっていこうということを検討していくということですが、部活はやりたがらない、入りたがらないということももいる。

部活に入らない子どもは、年々増えているのか、また、それは何が原因なのかということが私自身知りたいところです。あとで構わないのですがお聞かせください。

また一つ、このそれぞれの中学が合同で部活を行うとしたときに5+5が10になるのか。保護者にしてみれば、送り迎えをするのが大変だから、部活やめたらとか、子どももやっぱりやめようかなとか、そういうことにならないのかなという問題もあると思う。その点は私達が考えていかなければならない問題ですが、例えば、須坂市がお金を払って、バスを出していただいて、各中学を送迎するのか、それとも保護者がやっていくのかそこら辺も含めていろいろ考えていかなければならない問題だと思います。

す。文化系の部活も併せて考えていかないといけないということはもちろん思っています。

(L委員)

私は文化芸術協会の立場として、先行事例の6ページにある一番下のところですが、子どもたちの自主性主体性を最大限に尊重した活動を展開する、この部活はすごく良いと思いました。

私は娘がバレエをやっているのですが、日本舞踊ですとか、先ほど話に出た謡曲ですとか、様々な文化、専門性を持った方々が市内の団体にいらっしゃると思います。

そういった方々に指導していただける総合文化部みたいなそういったことも一つの選択肢であってもいいのかなと思いました。

あと、もう一つは部活動について先ほどもご意見がありましたが、費用の面ですとか送り迎えの負担ですとか、そういったことを逆にクリアできる人たちは、もう指導の質、専門性を求める地域クラブとか習い事に行っていると思うので、いかにそういったところに参加できない人たち、また、ちょっと部活動をやってみてもいいかなって思う人たちに、場を与えるかっていうのが一番の問題かなと思っていますので、地域クラブに移行したときに、その辺の金銭面とかの負担をやはり行政ですとか、どこかが補助したりすることがないと難しいのではないかと考えています。

幅広く自分たちでいろんなスポーツとか文化に触れる機会を作る場を与える。ということがまず第1の目標なのではないかと思いました。

(M委員)

常盤中学校で合唱部の保護者会長をしています。

合唱部の現状ですが、人数が少なくて、例年、部活を引退した3年生の応援を借りながら合唱コンクールに出たり、学校祭の部活動の発表で歌を披露しています。

受験を控えた3年生を引っ張ってくるのはとても大変で顧問の先生もとても苦労されているところと思っています。

地域移行で合同チームを組んで本当に歌の好きな子たちが集まって、活動できれば充実した活動ができるというメリットがあると思います。考えられる課題ですが、やはり皆さんが言われたように送迎はネックになってくるのではないかと考えています。今までどおり通学している中学校で活動ができるならば親の送迎は必要ないのですが、離れた場所でやるとなれば、少なからず親の送迎が必要になってくると思っています。

ます。子どもの活動時間に合わせて送迎できる家庭だったらよいのですが、それができない家庭にとっては難しい問題なのではないかと思われます。

また、現在は学校祭の中で部活動の発表の場があるので、発表の場に向けて、皆で活動に励んでいるのですが、地域移行後、活動発表の場がなくなってしまうのであれば、張り合いがなくなって、目標もないダラダラとした生活になってしまうと思います。やるとしたら、合同チームを組む中で、どんな感じで発表していくのか。その点どうなのかとと思っているところです。

(N委員)

相森中学校の男子バスケットボールの外部コーチをしています。

今回中学のバスケットボールの方は、須坂クラブというチームを、常盤中の先生が中心となって立ち上げてくださいます。昨日、発足会があって、いいスタートが切れたのかなと思いました。

今回、墨坂中は、人数が足りているので参加しないということでしたが、墨坂中は3年生の引退した子どもたちが、グロリアアンダー15というクラブチームを今回立ち上げて、グロリアアンダー15と一緒に須坂クラブに入っている。

活動内容としては月1回か2回の練習会、その都度場所を決め活動していくという形で、普段は各中学で部活をやって、月1回か2回集まって、みんなで活動する。

大会は、今のところ人数が足りているので、中体連の大会に各中学で参加する。グロリアアンダー15というクラブチームはリーグ戦が年間通してあるのでそのリーグ戦に参加していく。あと堀内カップや飯塚カップなど、結構、北信の強いチームが集まる大会には、しっかり参加して戦えるので、クラブチームの子どもたちも、中体連の大会に出られなくても 良いかというところでうまく折り合いがついているのかと思う。

今、ミニバスの方では小学生の方では須坂ミニバスというのとグロリアキッズというミニバスがあり、小学生の頃からミニバスやそういうクラブチームがあって、みんないろんな中学に分かれていくということで、今、中学では地域移行でクラブチームへ集まるということでいろいろな課題が出ていると思いますが、ミニバスの子たちは、各小学校から集まってきてやっているという形ができているので、そういうのを参考にしたり、別に先生がコーチをやっているわけではないので、そういうのを参考にしていけばいいのかなと思ったりしています。

今、相森中学校男子バスケット部は、水曜日、社会体育をやっていますが、そこに須坂ミニバスの子は、誰でも参加していいということで連携をとって、小学校と中学校の

繋がりが少しできてきていて、グロリアキッズとグロリアアンダー15も一緒に練習したりして、パイプラインができているのが、今、一つの道になっていて、いいと思っている。さっき、卓球の方で、クラブチームが出て、中体連の県大会に出られなかったという話がありましたが、そういう問題もバスケットボールではこういったやり方で対応してうまくいっていると思うので、そういうのを参考にいただければいいのかなと思っています。

あとはやっぱりこの地域移行に完全に移行するまでの数年の中で、調整していくことはいろいろあると思いますが、こういう形が一つできていると移行しやすいのかなと思いました。

自分の場合は、O先生(委員)がいるので、逆に外部コーチとしては教わることで多くて、本当に勉強になって、地域移行になるときに、自分もしっかり背負えるように勉強をさせていただいている。

他のコーチもやはりそういう面があり、バスケットボールの専門の先生がいるところで一緒に学べるっていう環境ができている。

地域移行するときに、専門の先生以外のコーチとかがしっかり見られるような形を作っていけるのではないかと思います、今ちょっといい方向へ進んでいると思っている。

(座長)

さきほどの部活動に入っていない子どもたちが増えているかどうかについて、わかりますか。あとは入っていない子は何をしているかということについてもお願いします。

(A委員)

前回の資料の3—2を見てもらうと、今部活の加入率がそれぞれどの程度か示されているのですが、墨坂中学校ですと、1年生が85%、2年生で75%、3年生ですと76%、全体で78%の子たちが部活に入るという現状になっている。

墨坂中学校は、部活数も多いので、ある程度子どもたちのニーズに応えられるような現状があるのか、それが部活動の入部率の高さに繋がっているのかと思います。

部活に入っていない子たちはサッカーのクラブチームとか、習い事をやっていて部活に入っていない子もいます。なぜ入っていないのかという調査をしたわけではないので具体的にはわかりませんが、自分のクラスを見ても習い事などで入部していない子が多いのですが、ある子に聞いたらやりたいことが見つからない、今のある部活の中でやりたいものがない、自分が何をやりたいのかよくわからないということ

で、そんなに多いわけではありませんが、中には そういう子どもがいるのも現状と思います。

(座長)

あと、クラブ費の件はいかがですか。

(A委員)

実際、クラブ費の学校予算はありません。学校によってはPTA費から若干の補助があるかなと思います。保護者会でお金を集めてボールを買ったりしています。

私は昨年、卓球部の顧問でしたけど、優勝して全国大会に進むとき、費用の面でやはりかなりの負担がありまして、須坂市の補助をいただいて、学校のPTA費や同窓会からも補助をいただきましたが、遠征費の半分にも満たなかったもので、ほとんど保護者の方に負担していただきました。特に上の大会に進むと厳しいということは、去年感じたことであります。

地域移行のことを考えたときにどこを母体にするのか今日資料に出ていたのですが、それがどうなってくるか。お金の面とか保護者負担ということを考えると、少しでも支援していただけるような団体が母体になるといいのではと思いました。

(I委員)

教育委員会として、中学部活動に対する予算はございますか。

(中村課長)

外部指導者に対する謝礼として1校当たり7万円。

それから、特色ある教育の活動負担金ということで各校に約30万円交付し、その中から、各学校の判断で部活動の経費に使っている場合もあります。

(I委員)

いろいろな方から聞かれるのですが、学校の部活から地域クラブに移行になるときに、保護者の金銭的な負担がかなり増えるのではないかということ。先日、墨坂中学校のソフトテニス部が県大会行くにあたって、公式ボールを買わなきゃいけないときに学校が出してくれないので、全て保護者が出して買ったという話を聞きましたので、市として何かしてくれることはないのかと思い質問しました。

(小林教育長)

この部分については、この地域移行っていうのは大きな変革ですので、予算についてどうするかということも、当然考えていかなければならないと思います。今まではトータルとした形で、特色ある学校作りっていうところでお金をそれぞれの学校の判断

で使ってくださいということでしたが、やはりそのところは考えていかなければならないと思っています。

(K委員)

私、帰宅部の話とフリースポーツ部の話がテレビでやっていたと話したのですが、それともう1つやっていたのが、ゆるい部活のことです。

例えば週2日とか、3日とか毎日じゃなくて、緩い部活を希望する子どもが多い。

大会に出たい子どももいますし、それはそういう方向でやっていく必要がありますが、一方でそういう厳しい部活とかじゃなくてゆるい部活なら入りたいとか、また楽しく何でもやるフリースポーツ部みたいなものを希望している子どももいる。

例えば、先ほど総合文化っていう話が出ましたが、いろいろなものが、例えば週1回でも週2回でもあれば、それくらいならいいかなと入る子どもも出てくるのではないかという期待もあるわけです。

今の時代は、私達の時代と違って、ゆるさを求めているようなところもあると思うので、そこも併せて考えていく必要があるのではないかと考えております。

(座長)

F委員が言われた多様化にどう対応するかという部分もあるか思います。

費用の面ですが、土日に職員が部活を見ますと、そこは県の方からお金が出るというのがありますので、市だけではなくてそっちの方を考えていかなければいけないと思います。たくさん意見を出してもらいました。本当はこの後、スポーツ系と文化系で分かれて分科会を行う予定でしたが時間になってしまいました。

今日のことをまとめていただいて、いくつか重要な問題がでてきましたので、次回に繋げていきたいと思います。

(小林教育長)。

先ほど話に出ましたが、部活に入っていない子どもたちでやりたいことが見つからない子どもたちがいると思います。どんなことやりたいのかを知りたいと思いませんか。子どもたちが実はこういうことあったらいいなっていうようなものがもし聞けたら、どっかで調査してみるといいと思いました。

(座長)

また今日のところに県の方のアンケートも出ていまして、また、これを受けて市の方でも検討していると思いますので、そこでまとめていきたいと思います。

次回内容について説明をお願いします。

(清水部活地域移行コーディネーター)

私の方から次回の内容以外のことも含めて5点ほど連絡させていただきます。

まず次回ですが、先進地の視察を予定しております。

今のところ事務局では第1回の協議会で土橋オブザーバーからご紹介いただいた千曲坂城クラブの視察はどうかと考えております。皆さんから他に希望があればご紹介いただければと思います。日程等調整つき次第またご連絡を申し上げます。

2点目として、先進地の視察の前に、市内の中学校の部活動を視察したいという希望がありましたので、希望者だけということで、夏休み明けぐらいに設定したいと思います。後日連絡をします。

あと次回の内容ではないのですが、座長の方から話があったとおり、県では部活動の地域移行についてアンケートを行っております。

実施期間は今もう始まっておりまして6月22日から7月14日まででございます。

事務局としてはもう少し須坂市としての情報もほしいと考えておりますので、これも夏休み明けを目安にして市として独自アンケートを行ったかどうかとに考えております。委員の皆様からも何か聞きたいことがありましたら事務局の方にご連絡をください。事務局で内容調整してアンケートを行う方向で検討していきたいと思います。

4点目ですが国の方から話ありまして、地域クラブ活動の試行をやってほしいという指示がございます。地域の指導者による指導で、土日に合同で部活動を行うようなイメージでございますが、また中学校と相談して進めていきたいと思いますので、ご承知おきください。

5点目ですが本協議会の議事内容の概要について、市のホームページに掲載していきたいと考えております。準備整い次第アップしていく予定ですので、これについてもご承知おきをお願いします

あともう1点です。本日、分散会ができませんでした。

意見交換シートをお配りしてありますが、そこに言い足りないこととかありましたら記入していただいて、出していただければと思います。メールで直接送っていただいても構いません。その場合、様式に構わず思ったことだけ書いて送ってください。

私の方で整理をして、また次回に活かしていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

(教育長)

整理するのは良いけど、先進地視察に行く前に、今日も大事な項目がたくさん出てきたので、どんなことが出てきたかっていうことを、その項目ぐらい事前に皆さんに配って、把握したうえで、視察に行った方がいいと思う。できるだけそのまとめを早めに配っていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

(清水部活地域移行コーディネーター)

準備でき次第皆さんへお配りしたいと思います。

(山岸次長)

全体を通しまして皆様から何かございますか。

それでは長時間にわたりありがとうございました。

それでは以上をもちまして、第2回の部活動地域移行検討協議会を閉会とします。

大変お疲れ様でした。